

平成28年 三重県議会定例会 教育警察常任委員会

I 議案補充説明

ページ

- 議案第125号 工事請負契約の変更について…………… 1
議案第127号 財産の取得について…………… 3

II 請願説明

- 請願第24号 義務教育費国庫負担制度の存続と更なる充実を求めることについて
請願第25号 教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求めることについて
請願第26号 子どもの貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求めることについて
請願第27号 防災対策の充実を求めることについて
請願第28号 2017年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求めることについて

III 所管事項説明

- 1 「『平成28年版成果レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見」への回答（教育委員会関係）について…………… 4
2 次期県立高等学校活性化計画（仮称）骨子案について…………… 6
3 第10回国際地学オリンピック日本大会について…………… 8
4 学力向上の取組について…………… 11
5 安心して学べる環境づくりの推進について…………… 26
6 三重県人権教育基本方針 改定案（中間案）について…………… 32
7 平成30年度全国高等学校総合体育大会の準備状況について…………… 38
8 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告について…………… 42
9 審議会等の審議状況について…………… 54
別添1 県立高等学校活性化計画（仮称）骨子案

平成28年10月11日

教育委員会

I 議案補充説明

議案第125号 「工事請負契約の変更について」

1 工事名

特別支援学校東紀州くろしお学園（本校）統合整備校舎棟ほか建築工事

2 施工場所

熊野市金山町字石ケ谷 2496 ほか5筆

3 契約金額

変更前 649,080,000 円（消費税等を含む。）

変更後 650,229,120 円（消費税等を含む。）

4 請負者住所氏名

三重県松阪市中央町 306 番地の 1

北村・塩谷特定建設工事共同企業体

代表者 株式会社北村組

取締役社長 北村 俊治

5 契約工期

変更なし

平成 27 年 12 月 21 日から平成 28 年 12 月 14 日

6 工事内容

変更なし

校舎棟 RC造一部木造 平屋建 延べ面積 2,231.36 m²（新築）

バスヤード棟 S造 平屋建 延べ面積 103.53 m²（新築）

渡り廊下棟 S造 平屋建 建築面積 18.03 m²（新築）

上記に係る建築工事一式

7 変更契約の内容

契約後、賃金単価が上昇したため、建設工事請負契約書第 25 条第 6 項「インフレスライド条項」の規定に基づき、増額を行うものです。

8 その他

(1) 教育部門

知的障がい・肢体不自由教育部門

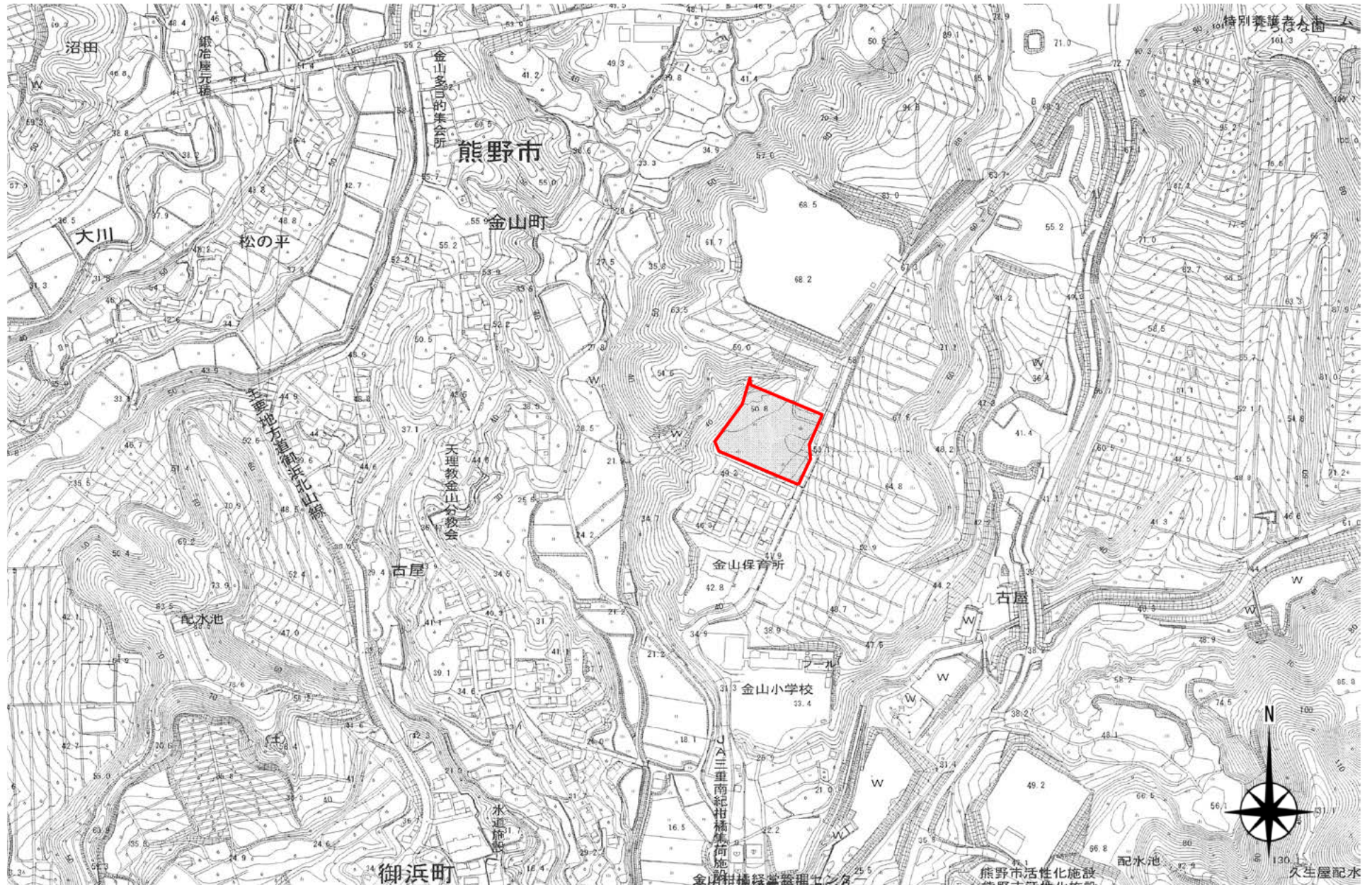
(2) 通学区域

熊野市、御浜町、紀宝町（1市2町）

(3) 児童生徒数

小学部約 10 人、中学部約 10 人、高等部約 20 人

位置図



議案第 127号 「財産の取得について」

1 種目及び数量

学校情報ネットワークに係る基幹サーバ等関連機器一式

【学校情報ネットワーク】

三重県教育委員会事務局とすべての県立学校等を繋ぐネットワークで、このネットワークのもと、教職員が一人一台パソコン及び各種システムを活用して、教材や資料の作成、成績処理や出欠管理等の校務、事務局と学校間における各種照会、教職員の旅費や休暇等の事務処理や教職員間の情報共有等を行っています。

2 金額

178,181,640 円（消費税等を含む。）

3 相手方住所氏名

三重県津市桜橋二丁目 149 番地
西日本電信電話株式会社三重支店
支店長 大西 秀隆

4 取得（調達）にかかる契約の内容

学校情報ネットワークを構成する機器のうち、保守期間が満了するものについて更新するものです。

（1）契約期間

議決日から平成 29 年 3 月 21 日まで

（2）取得（調達）する機器

- ・サーバ（県立学校 74 台、総合教育センター 3 台、データセンター 4 台）
- ・周辺機器（ファイアウォールなど）
- ・サーバラック
- ・基幹スイッチ

Ⅲ 所管事項説明

1 「『平成28年版成果レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見」への回答
(教育委員会関係)について

【教育警察常任委員会】

第1編(第一次行動計画の評価)

施策番号	施策名	主担当部局名	委員会意見	回答
224	学校における防災教育・防災対策の推進	教育委員会	<p>屋内運動場等の吊り天井等落下防止対策については、熊本地震の被害状況などからみても、喫緊の課題であることから、予算面で厳しいところもあると思うが、出来るかぎり前倒しして取組を進められたい。</p> <p>生徒が支援者となる視点からの防災教育は地域から見てもとても重要なことである。このため、そこに向けて中高校生の意識付けをしっかりと図っていくとともに、地域の防災組織等との連携なども含め、各地域の実情に応じた取組をしっかりと進められたい。</p>	<p>屋内運動場等天井等落下防止対策について、平成27年度に実施した30校46棟では、特別支援学校や避難所に指定されている体育館を優先的に実施しました。特別支援学校の整備が平成28年度・平成29年度とピークになりますが、平成29年度にも施工できるよう、本年度は10校ほど設計を実施する予定であり、できる限り前倒しして取り組めます。</p> <p>これまで主体的に行動する力を育成する防災教育を推進してきましたが、今後は、生徒が支援者となる視点から安全で安心な地域社会づくりに貢献する能力を育成する防災教育にも取り組めます。</p> <p>平成28年度は、本県の中高生が東日本大震災の被災地を訪れ、仮設住宅の訪問によるボランティア活動や現地中高生との交流学习を通じて、地域の一員として行動できる意識や行動力の育成に取り組んでいます。</p> <p>また、地域の防災組織との連携については、各学校で自主防災組織などと連携しているところですが、みえ防災・減災センターとも連携して各学校での防災訓練等の取組を支援してまいります。</p>

第2編(第二次行動計画の取組)

施策番号	施策名	主担当部局名	委員会意見	回答
221	夢や希望をかなえる学力と社会参画力の育成	教育委員会	スマートフォン使用などの生活習慣や読書習慣の確立に向けて県が取り組むチェックシートの利活用については、県が一方的に行うものだけではなく、県がしっかりとフォローしていくなど、家庭とのやり取りが双方向でできるような形で、しっかりと進められたい。	生活習慣・読書習慣チェックシートについて、市町等の要望を踏まえ、子どもと保護者が家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりを考える項目を追加するなど発達段階に配慮して作成し、PTA等と連携し活用を推進しています。また、家庭で話し合っただけでなく、学校等でも状況を把握して、学校便りや懇談会等で保護者と情報共有し、児童生徒の生活指導に生かしていくなど、家庭へのフィードバックが進むよう、取り組んでいきます。
			団塊世代における教員の退職が進むなかで、1年目の新任教員が担任に着くような動きがある。このため、新任教員の配置時の導入教育についてしっかり取り組むよう検討されたい。また、非常勤講師についても研修を受けやすい環境づくりに努められたい。	新任教員については、採用前研修を教職等に関する基礎的・基本的な知識を身につけることを目的として3月に実施しています。また、初任者研修については、悉皆研修として、目指す教師像や指導方法の工夫改善など、より実践に近い形で年間を通して計画的に実施しています。 非常勤講師等については、各学校で校長が、生徒指導上の諸課題など一定時間を設けて、研修をしています。
223	健やかに生きていくための身体の育成	教育委員会	食育の推進で、朝食を食べないというのは、家庭環境や生活習慣によるところが大きいものと考えられる。このため、各家庭から見えてくる実態などをしっかりと把握したうえで、他の関係部局との連携も図りつつ部局横断的な取組として進められたい。	子どもが朝食を食べない理由は、「時間がない」、「食欲がない」が8割であり、就寝時間が不規則など保護者も含めた生活習慣も影響していると思われます。そのため、生活習慣チェックシートを活用して、生活習慣を見直していく取組を進めています。しかし、家庭状況によっては、生活習慣の改善が難しい場合もあることや、平成27年度「三重県子どもの貧困対策計画」が策定されたことから、健康福祉部とともに、積極的に情報収集・情報共有を図り、関係機関と連携して総合的に取り組んでいきます。
225	笑顔あふれる安全で安心な教育環境づくり	教育委員会	「いじめ防止条例(仮称)」の制定に向けては、真に寄り添えるようなものにしていくことが重要であり、今後は、県議会をはじめ関係者からの意見を十分に聴き取ったうえで条例制定の検討を進められたい。	「いじめ防止条例(仮称)」の制定に向け、他県の先例研究や、関係機関との協議を進めています。子どもの心に響くかということが重要であり、条例の文言だけでなく、制定プロセスにおいても、当事者目線・子ども目線の工夫ができないかという問題意識を持って、鋭意検討し、平成28年度中を目処に取り組んでいきます。
			いじめ、暴力など生徒指導上の諸問題、不登校などがあるが、現場からは、発達障がいと密接に係わっているとの声をよく聞く。今後、これらを解決していくなかで、もし発達障がいと関係があるようであれば、そのようなことも併せて検討されたい。	児童生徒に係るいじめ等生徒指導上の諸課題については、個別の指導計画等の活用や関係機関との連携などを通して、発達障がいも含めた一人ひとりの障がいの状況も踏まえながら、総合的に対応してまいります。

2 次期県立高等学校活性化計画（仮称）骨子案について

1 策定の趣旨

- ・ 平成 27 年度、三重県総合教育会議の協議を経て、三重の教育の基本方針や教育施策を示した「三重県教育施策大綱」が策定されました。また、本県の教育振興基本計画である「三重県教育ビジョン」を策定しました。これらに基づき地域から信頼される学校づくりや県立高等学校の特色化、魅力化を図っていく必要があります。
- ・ 人口減少社会の進行、グローバル化や情報化の進展、産業構造や雇用環境の変化など、教育を取り巻く社会状況は大きく変化しています。また、国においては高校と大学の接続改革や学習指導要領の改訂など、教育改革が急速に進められています。このような高等学校教育を取り巻く環境変化などに的確に対応していく必要があります。
- ・ 今後、中学校卒業者数の減少が見込まれるなか、高等学校が活力ある教育活動を行い、生徒の社会性を育む場であり続けられるよう、地域の状況や学校の果たす役割、学校の特色等に配慮しつつ、総合的に考えていく必要があります。
- ・ 現行の高等学校活性化計画が平成 28 年度で終了することから、教育施策大綱や教育ビジョンの方向性を踏まえるとともに、社会状況の変化等に対応した新たな活性化計画を策定します。

2 計画期間

- ・ 平成 29 年度～33 年度までの 5 年間の計画とします。

3 骨子案の構成

(1) 県立高等学校をめぐる現状と課題（別添 1 P 2）

- ① 社会の変化
- ② 教育をめぐる動き
- ③ ニーズの多様化
- ④ 中学校卒業者数の減少

(2) 県立高等学校活性化の基本的な考え方（別添 1 P 3）

- ① 新しい時代を生き抜いていく力の育成
- ② 生徒一人ひとりに応じた教育の実現
- ③ 人口減少社会における高等学校のあり方
- ④ 学校の組織力と教職員の資質の向上

(3) 県立高等学校活性化のための取組（別添 1 P 4）

- ① 新しい「学び」への変革
- ② 社会とつながり貢献する力の育成
- ③ 生徒一人ひとりに応じた多様な教育の推進
- ④ 地域で学び地域を活かす教育の推進
- ⑤ 新しい「学び」と多様で専門的な教育を実践する教職員の育成

(4) 社会の変化に対応した県立高等学校のあり方 (別添1 P10)

- ① 各学科の活性化の現状と課題
- ② 県立高等学校の規模と配置について

4 今後の策定スケジュール

三重県教育改革推進会議で審議をいただくとともに、県民、各地域協議会、市町教育委員会、県議会等の意見や全国の状況を参考にしながら、策定を進めます。

12月12日 教育警察常任委員会 中間案の説明

12月中旬～1月中旬 パブリックコメント

3月13日 教育警察常任委員会 最終案の説明

3月 教育委員会定例会 議決

3 第10回国際地学オリンピック日本大会について

1 大会概要

世界各国・地域から選抜された高校生が集い、地学の実力を競う国際地学オリンピックが、日本ではじめて三重県で開催されました。

(1) 大会日程

- 8月 20日 (土) 三重県到着
- 21日 (日) 開会式〔三重大学〕伊賀流忍者博物館訪問〔伊賀市〕
- 22日 (月) エクスカーション (交流会)〔伊勢市〕
三重県宣言ミーティング〔鈴鹿市〕
- 23日 (火) 筆記試験〔三重大学〕三重県総合博物館訪問〔津市〕
- 24日 (水) 実技試験〔三重大学、津市美里町〕
- 25日 (木) I T F I (国際協力野外調査)〔熊野市〕
- 26日 (金) I T F I 発表会〔三重大学〕
- 27日 (土) 閉会式〔三重大学〕

(2) 主催及び共催

- 主催：国際地学オリンピック 2016 組織委員会
NPO法人地学オリンピック日本委員会
- 共催：公益社団法人日本地球惑星科学連合、三重県、三重大学、
国立研究開発法人科学技術振興機構

(3) 参加者数

総計 715名

<内訳>

- ・ 26の国・地域の代表高校生 110名 (ゲスト生徒 10名を含む)
- ・ 26の国・地域のメンター 91名
- ・ 三重県の高校生 265名 (12校)
- ・ 大会関係者等 249名

2 大会結果

日本代表の生徒4名が、金メダル3個、銀メダル1個を獲得し、これまでの大会で過去最高の成績を修めました。また、ゲスト生徒として参加した県立高等学校の生徒2名も銅メダル相当の成績を修めました。

なお、大会結果の詳細は以下のとおりです。

<日本代表生徒>

広島学院高等学校3年	笠見 京平さん	金メダル
大阪府立北野高等学校3年	神原 祐樹さん	銀メダル
海陽中等教育学校5年	坂部 圭哉さん	金メダル
海城高等学校3年	廣木 颯太朗さん	金メダル

※ 坂部圭哉さんは、第48回国際化学オリンピックでも金メダルを獲得しました。

<三重県からのゲスト生徒>

県立四日市高等学校3年	柵木 裕さん	銅メダル相当
県立伊勢高等学校3年	松山 拳大さん	銅メダル相当

※ ゲスト生徒は、メダルの対象とはなりません、世界の代表生徒と同じ日程で試験や交流会等に参加しました。

3 県内高校生との交流

(1) 生徒実行委員会

県内の公立・私立の高等学校 11 校の生徒 60 名で組織された生徒実行委員会が、開会式・閉会式の一部を企画・運営するとともに、伊賀流忍者博物館・三重県総合博物館において大会参加生徒を英語で案内するなど、交流を深めました。

(2) 県立宇治山田商業高等学校

県立宇治山田商業高等学校国際科 1・2 年生の生徒 77 名が、エクスカッション（交流会）において、大会参加生徒とともに伊勢神宮の内宮及びその周辺のおはらい町・おかげ横丁等を案内し、交流を深めました。

(3) 県立木本高等学校

県立木本高等学校の生徒 45 名が、I T F I（国際協力野外調査）において、鬼ヶ城や七里御浜等における大会参加生徒の調査研究をサポートし、交流を深めました。

4 「三重県宣言」（別紙）

大会参加生徒が「地球温暖化防止に向けて、私たちができること」というテーマで「三重県宣言」を作成し、大会参加生徒 6 名と生徒実行委員 1 名が閉会式にて発表しました。

※ 生徒実行委員は 6 月にジュニア・サミット参加者等と意見交換して「三重県宣言」の原案を作成しました。

5 今後について

(1) 各科学オリンピックへ挑戦する高校生の育成

高校生の自然科学への興味を高め、機運を醸成していくことで、地学はもちろんのこと、数学、物理、化学、生物、情報、地理の各科学オリンピックへ挑戦する高校生を、大学、三重県総合博物館や国立研究開発法人科学技術振興機構等と連携しながら育成していきます。

(2) 探究的な活動の普及

国際地学オリンピックで行われた I T F I（国際協力野外調査）のように、自ら課題を発見し、調査・研究を行い、その結果をまとめ発表するような取組を全県的に広げていくことを目的とした「みえ自然科学フォーラム 2016（仮称）」を、大学や三重県総合博物館等と連携しながら開催します。

(3) 今日的な課題を自ら考え、他者とディスカッションする場の創出

高校生が積極的に自分の意見を発信する力を身につけられるよう、国際地学オリンピックで出された「三重県宣言」をテーマの 1 つとして、持続可能な社会づくりに向けてディスカッションする場を設けるなど、「2016 年ジュニア・サミット in 三重」と「国際地学オリンピック」を一過性のものにとどめない取組を推進していきます。

三重県宣言 IES02016

地球温暖化防止のために私たちができること

(背景)

今日、国際地学オリンピック参加の26の国と地域の代表と三重県の高校生は、ここ日本の三重県で集まりました。“Our future: earth and space”というテーマのもと競い合うとともに、現在と未来の環境問題に立ち向かうべく国境を越えて協力しました。私たちの世代はまさしく地球温暖化の脅威や地球環境の破壊の時代に生きていくことになるでしょう。

私たちはこれまで人類がもたらした環境破壊の影響を抑えるだけでなく、次の世代が平和のうちに暮らせるような持続可能な社会を構築しなければなりません。国際地学オリンピックは平和と人間愛を尊重し、地質学、海洋学、気象学、天文学をはじめとする地学分野の知識と技能を培うことを目標にしています。

解決策1 (見識を広める)

私たちは地球を大切に作る社会に向けて取り組む使命があります。科学的見識を広めて気候変動に伴う問題に向き合っていきます。

解決策2 (温室効果ガス排出削減)

私たちは、現在そして未来にむけた温室効果ガス削減のための実用的手段を創出し、導入していく責務があります。気候変動にうまく対処するには、国際協力し、速やかに行動を起こしていかなければなりません。

解決策3 (環境にやさしい技術、研究、投資)

未来に向けて重要なのは、エネルギー消費を0にすることではなく、再生可能エネルギーに移行することです。環境にやさしい技術への研究と投資を進めていきます。

結論

気候変動問題の長期的、短期的な解決に向けて前進していくために上記のことを実行していかなければなりません。

考えたことは実行に移すべきです。世界中の80億人のそれぞれ一人一人が環境保護に向けて行動を起こさなければなりません。

4 学力向上の取組について

1 「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」について【別紙1、2参照】

本年度から「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」を展開しています。学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援等により、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組んでいきます。

2 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

全国の平均正答率や平均無解答率との差が大きく改善した昨年度の結果を受け、子どもたちや教職員に芽生えてきた「やればできる」という思いが形になってきています。各学校では、校長のリーダーシップのもと、組織的・継続的な授業改善のPDC Aサイクルを活用した教職員の取組が一層推進されるとともに、子どもたちが日頃の学習活動に主体的に、根気よく取り組んできたことが、成果に結びついたと考えます。

(1) 調査の概要

実施日	平成28年4月19日(火)
対象	小学校第6学年、中学校第3学年
参加校	公立小学校 370校、中学校 157校 県立特別支援学校 小学部 2校、中学部 2校

(2) 県内公立学校分の調査結果

① 教科に関する調査【別紙3、4参照】

ア 平均正答率

- ・ 8教科中2教科で、全国の平均正答率より高い水準(小学校国語B、小学校算数A)、1教科で同程度(中学校数学A)。
- ・ 8教科中6教科で、全国との差が昨年度より改善。

イ 平均無解答率

- ・ 8教科中6教科で、全国との差が昨年度より一層改善し、全国よりも低い(良好な)水準。

② 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査

ア 学校での組織的な取組に関する内容

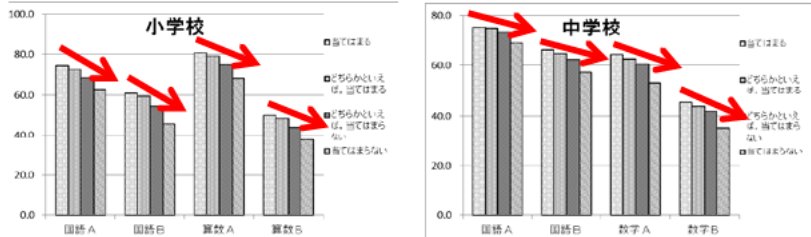
中学校での組織的な取組(校長による授業の見回り、「目標(めあて・ねらい)の提示」、「振り返る活動」等)の改善が見られます。小学校では、

昨年度から更に改善が進んでいます。引き続き小中学校ともに質的な取組の充実を図る必要があります。

※各年度の数値は、三重県(全国)を表しています。(単位：%)

項目に表記する【児童生徒】は児童生徒質問紙を、【学校】は学校質問紙を示します。

項目	結果				
授業の目標(めあて・ねらい)の提示 【児童生徒】 【学校】	・ <目標(めあて・ねらい)の提示>肯定的な回答及び乖離				
	小学校	H26	H27	H28	
	児童質問紙	75.7 (82.0)	83.0 (86.3)	88.8 (87.6)	
	学校質問紙	91.3 (96.9)	97.8 (98.1)	98.7 (98.8)	
	乖離	-15.6(-14.9)	-14.8(-11.8)	-9.9(-11.2)	
	中学校	H26	H27	H28	
	生徒質問紙	62.1 (71.6)	75.5 (79.7)	85.5 (84.9)	
	学校質問紙	88.3 (94.0)	87.6 (95.7)	100.0 (97.8)	
	乖離	-26.2(-22.4)	-12.1(-16.0)	-14.5(-12.9)	
	授業の振り返る活動の設定 【児童生徒】 【学校】	・ <振り返る活動の設定>肯定的な回答及び乖離			
		小学校	H26	H27	H28
		児童質問紙	67.1 (71.9)	71.4 (75.3)	76.9 (76.1)
		学校質問紙	76.3 (91.6)	89.9 (93.9)	93.0 (94.9)
		乖離	-9.2(-19.7)	-18.5(-18.6)	-16.1(-18.8)
中学校		H26	H27	H28	
生徒質問紙		51.4 (53.3)	58.3 (59.3)	68.8 (63.1)	
学校質問紙		84.5 (89.2)	87.5 (90.9)	96.2 (93.0)	
乖離		-33.1(-35.9)	-29.2(-31.6)	-27.4(-29.9)	
・ 肯定的な回答をした児童生徒ほど全教科で平均正答率が高い傾向にある。 ・ 肯定的な回答をした児童・学校の割合は増加し、目標(めあて・ねらい)の提示の乖離は改善しているが、振り返る活動の乖離は課題が見られる。(小学校) ・ 肯定的な回答をした生徒・学校の割合は増加しているが、乖離は課題が見られる。(中学校)					
授業での学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動の取組(主体的・協働的な授業)		・ <小学校>肯定的な回答			
			H27	H28	
		児童質問紙	71.0 (74.2)	75.0 (75.7)	
		学校質問紙	67.1 (73.0)	77.4 (80.1)	
	乖離	+3.9 (+1.2)	-2.4 (-4.4)		
	・ <中学校>肯定的な回答				
		H27	H28		
	生徒質問紙	69.9 (65.7)	73.1 (69.3)		
	学校質問紙	59.7 (63.3)	68.6 (72.6)		
	乖離	+10.2 (+2.4)	+4.5 (-3.3)		

<p>への取組)</p> <p>【児童生徒】</p> <p>【学校】</p>	<p>・教科に関する調査との関連</p>  <p>・肯定的な回答をした児童生徒ほど、全教科で平均正答率が高い傾向にある。小中学校ともに割合が増加し、取組が進んでいるが、生徒以外は全国平均より下回っている。</p>															
<p>校長の授業の見回り（週に2回以上）</p> <p>【学校】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="571 696 1390 815"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>84.5 (91.6)</td> <td>95.4 (93.1)</td> <td>98.2 (94.2)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>69.2 (79.3)</td> <td>81.4 (81.4)</td> <td>88.1 (82.6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・実施の割合は増加傾向にあり、全国平均も上回り大きな改善が見られる。</p>		H26	H27	H28	学校質問紙(小)	84.5 (91.6)	95.4 (93.1)	98.2 (94.2)	学校質問紙(中)	69.2 (79.3)	81.4 (81.4)	88.1 (82.6)			
	H26	H27	H28													
学校質問紙(小)	84.5 (91.6)	95.4 (93.1)	98.2 (94.2)													
学校質問紙(中)	69.2 (79.3)	81.4 (81.4)	88.1 (82.6)													
<p>小学校訪問</p> <p>・訪問前(H27調査)と訪問後(H28調査)の訪問回数での比較</p>	<p>・教科に関する調査における全国平均正答率との差の比較</p> <table border="1" data-bbox="571 909 1390 1050"> <thead> <tr> <th></th> <th>小国A</th> <th>小国B</th> <th>小算A</th> <th>小算B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回訪問校</td> <td>+5.8</td> <td>+2.8</td> <td>+4.8</td> <td>+1.3</td> </tr> <tr> <td>1回訪問校</td> <td>+0.4</td> <td>0.0</td> <td>+0.3</td> <td>+0.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2回訪問校（H27：56校）では、1回訪問校よりも全教科で全国との差の改善が大きい。</p>		小国A	小国B	小算A	小算B	2回訪問校	+5.8	+2.8	+4.8	+1.3	1回訪問校	+0.4	0.0	+0.3	+0.2
	小国A	小国B	小算A	小算B												
2回訪問校	+5.8	+2.8	+4.8	+1.3												
1回訪問校	+0.4	0.0	+0.3	+0.2												
<p>家庭学習の課題（宿題）の出し方</p> <p>【学校】</p>	<p>・全国の小学校では、宿題を与えた、宿題を評価・指導をしたなどの宿題の出し方に関連する多くの項目で、肯定的な回答をした学校ほど平均正答率が高い傾向にある。三重県の小学校では、そのうちの3つの項目（宿題を与えた、宿題を評価・指導、家庭での学習方法を具体例を挙げて指導）で関連が見られる。</p> <p>・全国の中学校では、1つの項目（調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた）で関連が見られるものの、三重県の中学校では、関連が見られない。</p> <p>・今後、効果的な宿題の出し方について工夫が必要である。</p>															

[日本語指導が必要な児童生徒の在籍する学校の状況]

項目	結果
日本語指導が必要な児童生徒	<p>・日本語指導が必要な児童生徒の在籍数と平均正答率の間には明確な関係性は見られないが、地域の特性や学校の実態により状況が異なることから、引き続き、それぞれに応じた支援が必要である。</p> <p>・平均正答率が高い学校では、言語活動、補足的な学習のサポート、地域との関わり、教員研修等の取組が行われている傾向にある。</p>

[就学援助を受けている児童生徒の在籍する学校の状況]

項目	結果
就学援助を受けている児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助を受けている児童生徒の在籍割合と平均正答率との間には明確な関係性は見られないが、地域の特性や学校の実態により状況が異なることから、引き続き、それぞれに応じた支援が必要である。 ・平均正答率が高い学校では、言語活動、中学校区の全国学調分析結果等の共有、地域との関わり、図書館等を利用した授業、教員研修等の取組が行われている傾向にある。

【手立て】・校長のリーダーシップによる組織的・継続的な学校体制づくり

⇒県の指導主事、研修主事による学校訪問（中学校全校訪問）

教育支援事務所の活用によるオーダーメイドの支援

- ・国の調査官を招へいた研修会

⇒小学校国語(H26～)、小学校算数(H27～)、中学校数学(H28～)に加え、中学校国語を追加実施

- ・県内小中学校への具体的な取組啓発

⇒効果が見られた学校の取組の紹介、横展開による波及（学力向上通信「三重の学Viva!!」等）

- ・県・市町指導主事の研修会及び会議

- ・3点セット等の年間を通じた計画的な活用の促進

⇒ワークシートの質的・量的充実（リーディングスキル*を含むものも作成）

*：教科書程度の日本語の文章の意味を正確に読み取れているか(例：主語が分かるか等)

等

イ 家庭での過ごし方に関する内容

小中学校ともにテレビ視聴時間等は改善が見られます。また、家での学習習慣（学習時間、復習等）、スマホの使用時間や読書習慣の項目で、小学校では、全国に及ばないものの一定の改善が見られる一方、中学校では、改善が見られず、全国との差が広がった項目もあります。

スマホ等の適切な使用、学習習慣や読書習慣等、家で話し合ってルールをつくることなどが大切です。「子どもの問題は、大人の問題」。子どもたちは大人を見て育ちます。

項目	結果				
平日のテレビ等の視聴（3時間以上） 【児童生徒】	・3時間以上と回答した割合				
		H21	H26	H27	H28
	児童質問紙(小)	47.1(45.7)	38.4(38.0)	35.8(36.1)	32.4(32.8)
	生徒質問紙(中)	42.1(38.0)	35.2(31.5)	34.2(30.5)	25.5(24.1)
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒ともに視聴時間は減少傾向にあり、昨年度に引き続き児童(小)の割合は全国を下回っている。 ・全教科で、基本的に時間の長さや学力との関連が見られる。 				

<p>平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)</p> <p>※H21はインターネット</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・3時間以上と回答した割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>4.0(3.4)</td> <td>5.6(5.0)</td> <td>6.3(5.7)</td> <td>5.9(5.8)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>10.2(8.6)</td> <td>24.5(19.8)</td> <td>21.5(18.2)</td> <td>18.6(16.6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・質問紙調査と教科に関する調査との関連</p> <p>・昨年度より改善しているものの、全国平均を上回っている。</p> <p>・全教科で時間の長さで学力との関連が見られる。</p> <p>[参考]・携帯電話・スマホ所持割合(※H21は携帯電話)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>70.7(69.4)</td> <td>46.9(46.3)</td> <td>43.2(42.0)</td> <td>38.8(38.9)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>27.4(39.8)</td> <td>18.0(23.5)</td> <td>17.1(21.4)</td> <td>15.0(18.8)</td> </tr> </tbody> </table>		H21	H26	H27	H28	児童質問紙(小)	4.0(3.4)	5.6(5.0)	6.3(5.7)	5.9(5.8)	生徒質問紙(中)	10.2(8.6)	24.5(19.8)	21.5(18.2)	18.6(16.6)		H21	H26	H27	H28	児童質問紙(小)	70.7(69.4)	46.9(46.3)	43.2(42.0)	38.8(38.9)	生徒質問紙(中)	27.4(39.8)	18.0(23.5)	17.1(21.4)	15.0(18.8)
	H21	H26	H27	H28																											
児童質問紙(小)	4.0(3.4)	5.6(5.0)	6.3(5.7)	5.9(5.8)																											
生徒質問紙(中)	10.2(8.6)	24.5(19.8)	21.5(18.2)	18.6(16.6)																											
	H21	H26	H27	H28																											
児童質問紙(小)	70.7(69.4)	46.9(46.3)	43.2(42.0)	38.8(38.9)																											
生徒質問紙(中)	27.4(39.8)	18.0(23.5)	17.1(21.4)	15.0(18.8)																											
<p>平日の学習時間(1時間以上)</p> <p>【児童生徒】</p> <p>休日の学習時間(1時間以上)</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・<平日の学習時間>1時間以上と回答した割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>55.4(57.2)</td> <td>59.4(62.0)</td> <td>58.4(62.7)</td> <td>60.4(62.5)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>64.6(65.3)</td> <td>64.4(67.9)</td> <td>66.5(69.0)</td> <td>65.2(67.9)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・<休日の学習時間>1時間以上と回答した割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>46.9(55.9)</td> <td>45.8(56.7)</td> <td>49.0(57.0)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>57.4(67.4)</td> <td>59.9(68.7)</td> <td>59.8(67.8)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の割合は高くなってきているが、全国平均より低い。(小学校)</p> <p>・全国平均との差は縮まる傾向にあるが、生徒の割合はほとんど変わらず、改善が見られない。(中学校)</p>		H21	H26	H27	H28	児童質問紙(小)	55.4(57.2)	59.4(62.0)	58.4(62.7)	60.4(62.5)	生徒質問紙(中)	64.6(65.3)	64.4(67.9)	66.5(69.0)	65.2(67.9)		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	46.9(55.9)	45.8(56.7)	49.0(57.0)	生徒質問紙(中)	57.4(67.4)	59.9(68.7)	59.8(67.8)			
	H21	H26	H27	H28																											
児童質問紙(小)	55.4(57.2)	59.4(62.0)	58.4(62.7)	60.4(62.5)																											
生徒質問紙(中)	64.6(65.3)	64.4(67.9)	66.5(69.0)	65.2(67.9)																											
	H26	H27	H28																												
児童質問紙(小)	46.9(55.9)	45.8(56.7)	49.0(57.0)																												
生徒質問紙(中)	57.4(67.4)	59.9(68.7)	59.8(67.8)																												
<p>復習</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>48.7(54.0)</td> <td>50.1(54.5)</td> <td>54.2(55.2)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>45.5(50.4)</td> <td>48.9(52.0)</td> <td>48.5(51.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・全国、三重県ともに、全教科で肯定的な回答をした児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にある。</p> <p>・復習をしている児童の割合が増加傾向にあるが、全国平均を下回っている。(小学校)</p> <p>・復習をしている生徒の割合は昨年度より減少し、全国平均を下回っている。(中学校)</p>		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	48.7(54.0)	50.1(54.5)	54.2(55.2)	生徒質問紙(中)	45.5(50.4)	48.9(52.0)	48.5(51.0)																		
	H26	H27	H28																												
児童質問紙(小)	48.7(54.0)	50.1(54.5)	54.2(55.2)																												
生徒質問紙(中)	45.5(50.4)	48.9(52.0)	48.5(51.0)																												

授業時間以外の 読書時間（平日 10分以上） 【児童生徒】 読書が好き 【児童生徒】	・ <平日10分以上の読書>実施状況			
		H26	H27	H28
	児童質問紙(小)	62.5(64.7)	61.1(64.2)	62.4(63.5)
	生徒質問紙(中)	50.7(53.0)	48.6(52.2)	46.4(49.7)
	・ <読書が好き>肯定的な回答			
		H26	H27	H28
	児童質問紙(小)	72.5(73.0)	72.4(72.8)	74.3(74.6)
	生徒質問紙(中)	68.8(69.4)	67.8(67.9)	69.4(69.9)
	・ 読書を10分以上する児童、読書を好きと肯定的な回答をする児童の割合はともに昨年度より増加し、全国平均との差もやや改善が見られる。(小学校)			
	・ 読書を好きと肯定的に回答する生徒の割合は昨年度より増加している。(ただし、全国平均との差は拡大。) 読書を10分以上する生徒は減少し、ともに全国平均より低い傾向にある。(中学校)			

【手立て】・ 家庭教育の充実に向けた応援戦略（仮称）の策定等

- ・ 生活習慣・読書習慣等の確立に向けたチェックシートの集中取組の推進
 - ⇒ 集中取組 H28：年3回、取組期間3週間のうちの1週間を基準に実施
 - ・ 取組後の指導改善に生かすフィードバックの充実、効果的な取組事例の普及・啓発（学力向上通信「三重の学Viva!!」等）
- ・ 学校における情報に関するリスクやモラルについての教育・啓発の支援を目的とした「インターネット社会を生き抜く力の育成事業」を実施
 - ⇒ 児童生徒の情報モラルの育成や教職員の指導力向上を図るため、「ネットトラブル対応事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進
 - ・ 児童生徒のインターネットの適切な利用等に対する知識・態度の育成を目的とした「みえネットスキルアップサポート」を実施（「ネット検定」から名称変更）
 - ・ 保護者への啓発を目的とした「ネット啓発講座」を実施
 - ・ インターネット上問題のある書き込みの検索、監視等を目的とした「ネット検索（ネットパトロール）」を継続実施
- ・ 子どもたちが安心して学べる環境づくりを推進するため、全公立中学校区にスクールカウンセラーを配置し、小学校から中学校への途切れのない支援の充実を図るとともに、福祉機関等の関係機関と連携するスクールソーシャルワーカーを効果的に活用するスクールカウンセラー等活用事業を実施
 - ⇒ 各学校におけるスクールソーシャルワーカーの一層の周知・活用を図るため、「スクールソーシャルワーカー活用事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進
 - ・ 児童虐待防止に向け、「学校生活における児童虐待早期発見チェックリスト（仮称）」を作成・周知し、そのチェックリストを活用した取組を推進
- ・ 第二次計画期間中（平成21年～）に実施した様々な取組の成果と課題等を踏まえ、今後の子どもの読書活動の推進に関する取組を示す「第三次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく読書活動の推進

- ・読書の楽しさや大切さを周囲に伝え、本と人、図書館と人をつなぐ読書活動のリーダー「子ども司書」の育成
⇒「子ども司書」の育成を希望する市町に対して、実地研修の実施を委託し、研修を受講した子どもを「子ども司書」として認証
- ・小中学校へのビブリオバトル普及
⇒小中学校の教員を対象とした講習会の実施

等

ウ 地域との関わりに関する内容

児童生徒の地域行事への参加は引き続き高い傾向にあり、地域等で起きている出来事等への関心も全国に比べて高く、改善の兆しもありますが、地域社会などでのボランティア活動への参加は依然として低く、全国と比べても低い状況にあり、主体的な関わりや活動では、課題が見られます。

また、PTAや地域の人などの学校の諸活動へのボランティア参加も全国に比べると低い状況にあります。

引き続き地域との連携等を一層進めていく必要があります。

項目	結果																		
地域行事への参加 【児童生徒】	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>73.2(68.0)</td> <td>72.0(66.9)</td> <td>73.1(67.9)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>50.4(43.5)</td> <td>50.7(44.8)</td> <td>50.9(45.2)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年よりも児童生徒の割合が増加し、これまでも全国平均を大きく上回っている。 					H26	H27	H28	児童質問紙(小)	73.2(68.0)	72.0(66.9)	73.1(67.9)	生徒質問紙(中)	50.4(43.5)	50.7(44.8)	50.9(45.2)			
	H26	H27	H28																
児童質問紙(小)	73.2(68.0)	72.0(66.9)	73.1(67.9)																
生徒質問紙(中)	50.4(43.5)	50.7(44.8)	50.9(45.2)																
地域や社会で起きている問題や出来事への関心 【児童生徒】	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>60.9(62.9)</td> <td>60.9(63.9)</td> <td>71.3(70.6)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>54.6(55.6)</td> <td>53.6(55.9)</td> <td>65.9(65.8)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の割合が大きく増加し、全国平均も上回っている。 					H26	H27	H28	児童質問紙(小)	60.9(62.9)	60.9(63.9)	71.3(70.6)	生徒質問紙(中)	54.6(55.6)	53.6(55.9)	65.9(65.8)			
	H26	H27	H28																
児童質問紙(小)	60.9(62.9)	60.9(63.9)	71.3(70.6)																
生徒質問紙(中)	54.6(55.6)	53.6(55.9)	65.9(65.8)																
児童生徒の地域社会などでボランティア活動に参加 【児童生徒】	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>31.5 (37.5)</td> <td>30.8 (36.2)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>42.1 (44.6)</td> <td>45.7 (48.7)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の割合は依然低く、全国平均も下回っている。 					H25	H28	児童質問紙(小)	31.5 (37.5)	30.8 (36.2)	生徒質問紙(中)	42.1 (44.6)	45.7 (48.7)						
	H25	H28																	
児童質問紙(小)	31.5 (37.5)	30.8 (36.2)																	
生徒質問紙(中)	42.1 (44.6)	45.7 (48.7)																	
PTA・地域の人などの学校の諸活動へのボランティア参加 【学校】	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>95.1(97.1)</td> <td>95.2(97.0)</td> <td>97.1(97.1)</td> <td>97.6(97.7)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>91.0(94.7)</td> <td>92.6(94.6)</td> <td>95.1(95.1)</td> <td>93.7(95.6)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・90%以上と高い水準ではあるが、基本的に全国平均を下回っている。 					H25	H26	H27	H28	学校質問紙(小)	95.1(97.1)	95.2(97.0)	97.1(97.1)	97.6(97.7)	学校質問紙(中)	91.0(94.7)	92.6(94.6)	95.1(95.1)	93.7(95.6)
	H25	H26	H27	H28															
学校質問紙(小)	95.1(97.1)	95.2(97.0)	97.1(97.1)	97.6(97.7)															
学校質問紙(中)	91.0(94.7)	92.6(94.6)	95.1(95.1)	93.7(95.6)															

<p>地域等の人材を招へいした授業等の実施</p> <p>【学校】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="611 230 1386 365"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>81.9 (76.3)</td> <td>82.9 (76.3)</td> <td>88.4 (82.4)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>61.7 (58.5)</td> <td>64.0 (58.8)</td> <td>74.2 (65.1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・学校の割合は増加傾向にあり、全国平均を上回っており、さらに差も広がる傾向にある。</p>		H26	H27	H28	学校質問紙(小)	81.9 (76.3)	82.9 (76.3)	88.4 (82.4)	学校質問紙(中)	61.7 (58.5)	64.0 (58.8)	74.2 (65.1)																								
	H26	H27	H28																																		
学校質問紙(小)	81.9 (76.3)	82.9 (76.3)	88.4 (82.4)																																		
学校質問紙(中)	61.7 (58.5)	64.0 (58.8)	74.2 (65.1)																																		
<p>授業(総合的な学習の時間、国語、算数・数学)で学習したことは普段の生活や社会にでたときに役立つ</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・<総合的な学習の時間>肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="611 495 1386 629"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>84.6 (85.0)</td> <td>84.5 (85.4)</td> <td>84.6 (83.2)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>72.5 (71.2)</td> <td>76.9 (74.6)</td> <td>75.2 (72.8)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・<国語>肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="611 669 1386 804"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>86.4 (87.4)</td> <td>88.0 (88.6)</td> <td>90.0 (89.2)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>82.0 (82.5)</td> <td>85.0 (84.2)</td> <td>85.4 (84.6)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・<算数・数学>肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="611 844 1386 978"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>88.2 (89.0)</td> <td>90.0 (90.3)</td> <td>90.5 (89.9)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>71.0 (71.4)</td> <td>73.2 (72.5)</td> <td>73.1 (71.5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・割合が増加傾向にあり、全国平均を上回っている。(小学校)</p> <p>・昨年度より割合が減少した教科もあるが、全国平均を上回っている。(中学校)</p>		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	84.6 (85.0)	84.5 (85.4)	84.6 (83.2)	生徒質問紙(中)	72.5 (71.2)	76.9 (74.6)	75.2 (72.8)		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	86.4 (87.4)	88.0 (88.6)	90.0 (89.2)	生徒質問紙(中)	82.0 (82.5)	85.0 (84.2)	85.4 (84.6)		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	88.2 (89.0)	90.0 (90.3)	90.5 (89.9)	生徒質問紙(中)	71.0 (71.4)	73.2 (72.5)	73.1 (71.5)
	H26	H27	H28																																		
児童質問紙(小)	84.6 (85.0)	84.5 (85.4)	84.6 (83.2)																																		
生徒質問紙(中)	72.5 (71.2)	76.9 (74.6)	75.2 (72.8)																																		
	H26	H27	H28																																		
児童質問紙(小)	86.4 (87.4)	88.0 (88.6)	90.0 (89.2)																																		
生徒質問紙(中)	82.0 (82.5)	85.0 (84.2)	85.4 (84.6)																																		
	H26	H27	H28																																		
児童質問紙(小)	88.2 (89.0)	90.0 (90.3)	90.5 (89.9)																																		
生徒質問紙(中)	71.0 (71.4)	73.2 (72.5)	73.1 (71.5)																																		
<p>将来の夢や目標を持っている</p> <p>【児童生徒】</p> <p>将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導</p> <p>【学校】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="611 1144 1386 1323"> <thead> <tr> <th>小学校</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙</td> <td>85.8 (86.7)</td> <td>85.3 (86.5)</td> <td>83.7 (85.3)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>65.3 (72.0)</td> <td>68.4 (72.4)</td> <td>77.7 (74.6)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>+20.5(+14.7)</td> <td>+16.9(+14.1)</td> <td>+6.0(+10.7)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="611 1341 1386 1520"> <thead> <tr> <th>中学校</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒質問紙</td> <td>71.6 (71.4)</td> <td>71.7 (71.7)</td> <td>71.0 (71.1)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>90.8 (94.2)</td> <td>98.2 (96.4)</td> <td>97.5 (97.1)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>-19.2(-22.8)</td> <td>-26.5(-24.7)</td> <td>-26.5(-26.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的な回答をした学校の割合が増加し、学校と児童の意識の差は縮まっているが、学校の指導が児童の意識向上に必ずしも結びついていない。(小学校)</p> <p>・昨年度より改善は見られず、引き続き学校と生徒の認識の差が見られる。(中学校)</p>	小学校	H26	H27	H28	児童質問紙	85.8 (86.7)	85.3 (86.5)	83.7 (85.3)	学校質問紙	65.3 (72.0)	68.4 (72.4)	77.7 (74.6)	乖離	+20.5(+14.7)	+16.9(+14.1)	+6.0(+10.7)	中学校	H26	H27	H28	生徒質問紙	71.6 (71.4)	71.7 (71.7)	71.0 (71.1)	学校質問紙	90.8 (94.2)	98.2 (96.4)	97.5 (97.1)	乖離	-19.2(-22.8)	-26.5(-24.7)	-26.5(-26.0)				
小学校	H26	H27	H28																																		
児童質問紙	85.8 (86.7)	85.3 (86.5)	83.7 (85.3)																																		
学校質問紙	65.3 (72.0)	68.4 (72.4)	77.7 (74.6)																																		
乖離	+20.5(+14.7)	+16.9(+14.1)	+6.0(+10.7)																																		
中学校	H26	H27	H28																																		
生徒質問紙	71.6 (71.4)	71.7 (71.7)	71.0 (71.1)																																		
学校質問紙	90.8 (94.2)	98.2 (96.4)	97.5 (97.1)																																		
乖離	-19.2(-22.8)	-26.5(-24.7)	-26.5(-26.0)																																		

[コミュニティ・スクール、学校支援地域本部]

項目	結果
コミュニティ・スクールの指定校と全国の平均正答率の差	<p>・指定校では、H27と比較し、基本的に改善が見られる。さらに、H21と比較しても、多くの教科で全国との差が縮まるとともに、非指定校より改善が見られる。</p>

学校支援地域本部の実施校（学校支援地域本部設置校のうち学習支援を35日（週1回程度）以上実施している学校）と全国の平均正答率の差	・実施校の平均正答率は、H21及びH27と比較し、全教科で全国との差が縮まり、ほとんどの教科で非実施校よりも改善が見られる。
--	--

【手立て】・コミュニティ・スクール等の導入を推進するなど、保護者や地域住民が参画した学校運営の推進

⇒・先進県（山口県）視察で学んだこと（若手教師の人材育成手法の一環として、中学校での教科を越えた授業研究等）を、三重県の取組に活用

- ・地域とともにある学校づくりサポーターの派遣等を通じて、コミュニティ・スクール等の地域と一体となって子どもたちを育む仕組みを導入
- ・学校支援地域本部（地域未来塾を含む）等を導入することにより、大学生や退職教員等の地域住民の知識・技能を活用した学校支援体制づくりを促進

・コミュニティ・スクール等への認識を深めるため、教職員研修を実施

・子どもの教育に関わる地域のネットワークの構築

⇒学校支援地域本部やコミュニティ・スクールの関係者、放課後子ども教室の関係者、社会教育委員、市町の関係職員等の交流会の開催

・教育活動全体をとおしたキャリア教育の充実

⇒各学校が社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成できるよう、子どもたちや学校、地域の実態に応じたキャリア教育計画（全体計画・年間指導計画）の策定を推進

等

エ 自尊感情・自己肯定感

子どもの自尊感情も高まっており、大人も子どもの自尊感情を高めることに努めている傾向にあります。

学校の取組、適切な評価が児童生徒の自己肯定感を高め、達成感や「やる気」を育てていきます。そして、学校が児童生徒にとって安心した居場所となっていくます。

項目	結果			
学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価 【学校】 先生はよいところを認めてくれる 【児童生徒】 ※新規	・肯定的な回答及び乖離			
	小学校	H26	H27	H28
	児童質問紙	80.1 (79.7)	—	83.8 (82.6)
	学校質問紙	97.1 (96.9)	97.6 (96.7)	99.4 (98.4)
	乖離	-17.0(-17.2)	—	-15.6(-15.8)
	中学校	H26	H27	H28
	生徒質問紙	74.0 (74.1)	—	79.6 (78.0)
	学校質問紙	96.9 (96.5)	99.4 (95.8)	98.8 (97.2)
	乖離	-22.9(-22.4)	—	-19.2(-19.2)
	・小学校では、児童、学校ともに増加傾向にあり、全国を上回っている。児童と学校との意識の差も改善傾向にある。			

<p>先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる</p> <p>【児童生徒】 ※新規</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="612 230 1046 353"> <tr> <td></td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>87.8 (84.8)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>77.4 (74.1)</td> </tr> </table> <p>・小中学校ともに全国平均を上回っている。</p>		H28	児童質問紙(小)	87.8 (84.8)	生徒質問紙(中)	77.4 (74.1)						
	H28												
児童質問紙(小)	87.8 (84.8)												
生徒質問紙(中)	77.4 (74.1)												
<p>ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="612 551 1388 674"> <tr> <td></td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>94.6 (94.4)</td> <td>94.5 (94.5)</td> <td>94.9 (94.4)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>94.6 (93.9)</td> <td>95.1 (94.2)</td> <td>95.0 (94.3)</td> </tr> </table> <p>[参考] (あきらめずに問題に取り組む)</p> <p>・文章で解答する問題や、言葉や数式を使ってわけや求め方を書く問題に対する取組方【児童生徒質問紙】について、最後まで努力したと回答した児童生徒は、全教科で平均正答率が高い。</p>		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	94.6 (94.4)	94.5 (94.5)	94.9 (94.4)	生徒質問紙(中)	94.6 (93.9)	95.1 (94.2)	95.0 (94.3)
	H26	H27	H28										
児童質問紙(小)	94.6 (94.4)	94.5 (94.5)	94.9 (94.4)										
生徒質問紙(中)	94.6 (93.9)	95.1 (94.2)	95.0 (94.3)										
<p>学校に行くのが楽しい</p> <p>【児童生徒】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="612 954 1388 1077"> <tr> <td></td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>86.6 (86.6)</td> <td>86.9 (87.0)</td> <td>86.9 (86.3)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>84.8 (82.4)</td> <td>83.9 (82.1)</td> <td>84.0 (81.4)</td> </tr> </table> <p>・大きな改善は見られないが、小中学校ともに全国平均を上回っている。</p>		H26	H27	H28	児童質問紙(小)	86.6 (86.6)	86.9 (87.0)	86.9 (86.3)	生徒質問紙(中)	84.8 (82.4)	83.9 (82.1)	84.0 (81.4)
	H26	H27	H28										
児童質問紙(小)	86.6 (86.6)	86.9 (87.0)	86.9 (86.3)										
生徒質問紙(中)	84.8 (82.4)	83.9 (82.1)	84.0 (81.4)										

【手立て】・体験的活動や大人の関わり、学力向上の取組全般

・子ども支援ネットワーク・グローイングアップ事業の支援

⇒教育的に不利な環境のもとにある子どもの自尊感情や学習意欲を高めるため、学校・家庭・地域がともに学習支援や体験活動を行う「子ども支援ネットワーク」の活動を活性化

・教育活動全体をとおしたキャリア教育の充実（再掲）

⇒各学校が社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成できるよう、子どもたちや学校、地域の実態に応じたキャリア教育計画（全体計画・年間指導計画）の策定を推進

等

3 市町教育委員会及び学校における平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

「みえの学力向上県民運動」の趣旨を踏まえ、保護者・地域の学校教育への理解・協力を得るため、調査結果等の情報共有を図ることにより県民総参加での子どもたちの学力向上を促進します。

なお、今年度、全市町教育委員会及び全学校において、全調査（教科に関する調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査）の結果等を何らかの形で情報共有する予定です。

みえの学力向上県民運動 基本方針

平成28年8月

三重県・三重県教育委員会

＜基本理念＞

激動の時代にあって、次世代を担う子どもたちには、生きる喜びを感じながら、主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って夢を実現させていく力（自立する力）とともに、グローバルな視点を持ちながら、他者との関わりの中で共に支え合い、新しい社会を創っていく力（共生する力）、すなわち、社会を生き抜いていく力が求められています。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばし支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成28年度からの4年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組めます。

＜取組の視点＞

みえの学力向上県民運動は、次の3点を取組の視点として進めます。

1. 「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

子どもたちの学力の育成にあたっては、学習指導要領等を踏まえ、「何を知っている・できるか」（個別の知識・技能）はもとより、「それをどう使うか」（思考力・判断力・表現力）、さらには「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（主体性・多様性・協働性、学びに向かう力）といった視点を重視し、総合的に捉えていく必要があります。

また、学びの過程では、さまざまな情報を関連づけ、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、やりっ放しにせず振り返って次につなげたり、課題の発見と解決に向けて、他者と協働しながら試行錯誤を重ね、自らの考えを広げ深めたりするなどといったプロセスが大切です。

そのため、そういった「今、求められている力」を意識し、また、キャリア教育の視点からも、子どもたちが発達段階に応じ、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持って学ぶことができるよう、授業改善等の取組を進めます。

2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「できるようになった！」という達成感を積み重ね、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

そのため、「教育の原点」である家庭教育を応援し、スマホの使用等について家庭で話し合っ規則を決めて守ったり、勉強時間を確保したりするなどの自己管理能力を育て、生活習慣・学習習慣を確立します。また、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなど、地域の多様な資源を最大限生かしながら、地域で支える体制づくりを進めます。

3. 「読書をとおした学び」を進めます

読書は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤をなす言語に関する能力を育む上で欠くことのできないものです。知識基盤社会にあつて、情報の収集・選択・活用という生涯にわたって主体的に学び続ける力を身につけるうえで重要性を増しているとともに、論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉を持つことは、豊かな心や規範意識の育成にも影響しています。

そのため、図書館を活用した授業づくりや朝の読書（朝読）はもとより、大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをおして家庭読書（家読）^{うちどく}を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立します。

みえの学力向上県民運動セカンドステージ ～子どもの問題は、大人の問題～



《ねらい》

「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、県民力を結集し、子どもたちの希望と未来を支える学力を育む

《子どもたちに育みたい力》

社会を生き抜いていく力

生きる喜びを感じながら、主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って夢を実現させていく力（自立する力）

グローバルな視点を持ちながら、他者との関わりの中で共に支え合い、新しい社会を創っていく力（共生する力）

自尊感情・自己肯定感

多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支える

取組の視点

1. 「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

- ・「個別の知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性、学びに向かう力」の総合的な育成
- ・粘り強く取り組み、次につなげたり、他者と協働し、自らの考えを広げ深めたりする学びの過程
- ・キャリア教育の視点からも、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持つ学び

2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

- ・さまざまな学びの場をとおして、「できるようになった!」という達成感の積み重ね
- ・生活習慣・学習習慣の確立（自己管理能力の育成 等）
- ・家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域で支える体制づくり



3. 「読書をとおした学び」を進めます

- ・生涯にわたって主体的に学び続ける力の育成
- ・豊かな心や規範意識の育成
- ・家庭読書（家読）の促進、生涯にわたる読書習慣の確立（大人自身が率先して読書し、読んだ本について語り合う 等）

具体的な取組

深まり

学校

授業力の向上

～校長会等と一層の連携～

- ・3点セット（全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシート）を年間を通じて計画的に活用した授業改善、校内外研修等の組織的な取組の徹底
- ・効果的な授業スタイル、ノート指導、宿題の出し方
- ・少人数指導の検証・充実

教育支援事務所

生活習慣・読書習慣の確立

地域とともにある学校づくりの促進

～PTA等と一層の連携～

○生活習慣・読書習慣の確立

- ・早寝、早起き、朝ごはん
- ・外遊びや運動
- ・学校の授業以外での読書時間
- ・スマホ、ネット等の適切な使用

○幼児教育の充実

- ・園訪問や保幼小接続モデルカリキュラムの作成

○地域とともにある学校づくりの促進

- ・地域の教育力を高める人材等のネットワークの構築
- ・三重県型コミュニティ・スクール、学校支援地域本部（地域未来塾を含む）等の取組の拡充

※家庭教育の充実に向けた応援戦略の確立
※優良PTAや「早寝早起き朝ごはん」運動に係る国の表彰等や家庭教育支援チーム等の活用も検討

家庭・地域

広がり



全国学力・学習状況調査において全国平均を上回った教科数
教科に関する調査における無解答の状況

子どもたちの自尊感情の状況

将来の夢や目標を持っている子どもたちの割合

主な指標

- ・授業内容を理解している子どもたちの割合
- ・授業で主体的・協働的に学習に取り組んでいると感じる子どもたちの割合
- ・「めあての提示」、「振り返る活動」の実施状況



- ・毎日、規則正しく寝起きしている子どもたちの割合
- ・朝食を毎日食べている子どもたちの割合
- ・子どもたちの家庭学習の状況
- ・生活習慣・読書習慣チェックシートの家庭での取組後、生活指導等に活用している小中学校の割合
- ・地域等の人材を招へいた授業等を行っている学校の割合
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある子どもたちの割合
- ・コミュニティ・スクール等に取り組んでいる市町の割合
- ・地域の教育関係者のネットワークへの参画者数（累計）
- ・生活困窮世帯またはひとり親家庭に対する学習支援を利用できる市町数
- ・放課後を利用した補充的な学習サポートを週2回以上実施した学校の割合
- ・地域の行事に参加している子どもたちの割合

- ・授業時間以外に読書をする子どもたちの割合
- ・図書館資料を計画的に活用した授業の実施割合



教科に関する調査(平均正答率経年比較)

別紙3

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度(抽出調査)		平成24年度(抽出調査)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度			
	平均正答率		平均正答率		平均正答率		平均正答率の95%信頼区間 (平均正答率の推計値±誤差の幅)		平均正答率の95%信頼区間 (平均正答率の推計値±誤差の幅)		平均正答率		平均正答率		平均正答率		平均正答率			
	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県		
小学校	国語A	81.7 ◎ <-1.1>	80.6	65.4 <-2.5>	62.9	69.9 <-2.1>	67.8	83.2~83.5 (83.3±0.2)	80.9~82.5 (81.7±0.8)	81.4~81.7 (81.6±0.2)	79.0~80.2 (79.6±0.6)	62.7 <-2.4>	60.3	72.9 <-3.3>	69.6	70.0 <-2.0>	68.0	72.9 ↗	71.7 <-1.2>	
	国語B	62.0 <-2.0>	60.0	50.5 <-3.4>	47.1	50.5 <-3.6>	46.9	77.7~78.0 (77.8±0.2)	74.2~76.2 (75.2±1.0)	55.4~55.8 (55.6±0.2)	51.8~53.5 (52.7±0.9)	49.4 <-2.7>	46.7	55.5 <-3.0>	52.5	65.4 <-0.1>	65.3	57.8 ↗	58.1 ◎ <+0.3>*	
	算数A	82.1 <-1.0>	81.1	72.2 <-1.3>	70.9	78.7 <-2.7>	76.0	74.0~74.4 (74.2±0.2)	71.5~73.4 (72.4±1.0)	73.1~73.5 (73.3±0.2)	71.4~73.0 (72.2±0.8)	77.2 <-1.4>	75.8	78.1 <-1.9>	76.2	75.2 <-0.4>	74.8	77.6 ↗	78.3 ◎ <+0.7>*	
	算数B	63.6 <-2.2>	61.4	51.6 <-1.9>	49.7	54.8 <-2.3>	52.5	49.1~49.5 (49.3±0.2)	46.5~48.2 (47.3±0.9)	58.7~59.1 (58.9±0.2)	56.0~57.6 (56.8±0.8)	58.4 <-3.1>	55.3	58.2 <-2.2>	56.0	45.0 <-0.9>	44.1	47.2 ↗	47.1 ◎ <-0.1>	
	理科									60.8~61.1 (60.9±0.2)	57.2~58.8 (58.0±0.8)							60.8 ◎ <-1.6>	59.2	
<-2.9>										<-1.6>										
中学校	国語A	81.6 ◎ <0.0>	81.6	73.6 <-1.0>	72.6	77.0 <-1.1>	75.9	75.0~75.2 (75.1±0.1)	73.5~74.7 (74.1±0.6)	75.0~75.2 (75.1±0.1)	73.3~74.7 (74.0±0.7)	76.4 <-1.4>	75.0	79.4 <-1.4>	78.0	75.8 <-0.8>	75.0	75.6 ↘	74.4 <-1.2>	
	国語B	72.0 ◎ <-1.0>	71.0	60.9 <-1.4>	59.5	74.5 <-1.2>	73.3	65.1~65.5 (65.3±0.2)	63.3~65.0 (64.1±0.9)	63.2~63.4 (63.3±0.1)	60.4~61.8 (61.1±0.7)	67.4 <-1.6>	65.8	51.0 <-2.0>	49.0	65.8 <-1.5>	64.3	66.5 ↘	64.3 <-2.2>	
	数学A	71.9 ◎ <+1.2>*	73.1	63.1 <+0.7>*	63.8	62.7 <0.0>	62.7	64.4~64.8 (64.6±0.2)	64.3~66.4 (65.4±1.1)	62.0~62.3 (62.1±0.2)	60.7~62.6 (61.6±1.0)	63.7 <-0.5>	63.2	67.4 <-0.3>	67.1	64.4 <-0.1>	64.3	62.2 ↗	62.2 <0.0>	
	数学B	60.6 <0.0>	60.6	49.2 ◎ <+0.1>*	49.3	56.9 <-0.4>	56.5	43.1~43.5 (43.3±0.2)	41.7~43.8 (42.8±1.1)	49.2~49.5 (49.3±0.2)	46.9~49.1 (48.0±1.1)	41.5 <-2.2>	39.3	59.8 <-1.5>	58.3	41.6 <-1.0>	40.6	44.1 ↗	43.2 <-0.9>	
	理科									50.9~51.1 (51.0±0.1)	49.7~51.4 (50.6±0.9)							53.0 ◎ <-0.4>	51.9	
<-0.4>										<-1.1>										

※< >内の数値は、(三重県の平均正答率) - (全国の平均正答率)の値を示し、全国平均との差において、
 ・◎：9回の中で最も良かった値、*：全国平均より良かった値
 ・右上がりの矢印：昨年度より改善された場合、右下がりの矢印：昨年度より改善されていない場合
 を示しています。
 ※平成23年度の調査は東日本大震災のため、実施されませんでした。

教科に関する調査(平均無解答率経年比較)

別紙4

		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度(抽出調査)		平成24年度(抽出調査)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		
		全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	
小学校	国語A	2.03 <0.42>	2.45	10.93 <1.99>	12.92	9.90 <1.92>	11.82	2.63 <0.88>	3.51	2.98 <1.01>	3.99	10.68 <1.65>	12.33	2.30 <0.56>	2.86	3.56 <-0.22>	3.34*	5.29 ◎ <-0.24>	5.05*	
	国語B	8.67 <2.54>	11.21	12.30 <2.88>	15.18	12.10 <3.93>	16.03	4.22 <1.71>	5.93	6.61 <2.53>	9.14	13.59 <3.25>	16.84	9.20 <2.20>	11.40	6.09 <0.02>	6.11	4.62 ◎ <-0.24>	4.38*	
	算数A	1.12 <0.22>	1.34	2.95 <0.44>	3.39	2.10 <0.46>	2.56	2.41 <0.44>	2.85	2.26 <0.62>	2.88	1.66 <0.30>	1.96	0.90 <0.11>	1.01	1.79 <-0.13>	1.66*	1.79 ◎ <-0.31>	1.48*	
	算数B	5.87 <1.40>	7.27	6.05 <1.56>	7.61	6.20 <1.79>	7.99	6.21 <1.81>	8.02	4.62 <1.17>	5.79	6.31 <1.80>	8.11	4.30 <1.06>	5.36	9.12 <0.52>	9.64	7.37 ◎ <-0.29>	7.08*	
	理科	/		/		/		/		3.08 <1.20>	4.28	/		/		3.21 ◎ <-0.05>	3.26*	/		/
中学校	国語A	3.52 ◎ <-0.23>	3.29*	3.77 <-0.20>	3.57*	3.30 <-0.03>	3.27*	2.70 <-0.10>	2.60*	3.53 <0.45>	3.98	2.41 <0.13>	2.54	3.10 <0.14>	3.24	2.57 <-0.17>	2.40*	2.05 <-0.13>	1.92*	
	国語B	5.17 ◎ <-0.06>	5.11*	8.65 <0.18>	8.83	5.60 <0.19>	5.79	6.80 <0.00>	6.80	4.81 <0.60>	5.41	2.83 <0.04>	2.87	3.50 <0.34>	3.84	2.23 <0.06>	2.29	4.39 <0.07>	4.46	
	数学A	4.05 <-0.37>	3.68*	6.64 <-0.49>	6.15*	5.10 <-0.31>	4.79*	6.27 <-0.37>	5.90*	2.65 <0.31>	2.96	5.31 <0.15>	5.46	4.30 <0.02>	4.32	3.72 <-0.48>	3.24*	6.30 ◎ <-0.68>	5.62*	
	数学B	14.44 <-0.46>	13.98*	13.45 <-0.70>	12.75*	9.70 <0.04>	9.74	19.30 <0.20>	19.50	13.08 <0.87>	13.95	16.71 <1.38>	18.09	10.90 <0.51>	11.41	15.34 <-0.49>	14.85*	14.69 ◎ <-0.74>	13.95*	
	理科	/		/		/		/		9.39 <0.46>	9.85	/		/		6.98 ◎ <-0.28>	6.70*	/		/

※< >内の数値は、(三重県の平均無解答率) - (全国の平均無解答率)の値を示し、全国平均との差において、

・◎：9回の中で最も良かった値、*：全国平均を下回る値

・右下がりの矢印：昨年度より改善された場合、右上がりの矢印：昨年度より改善されていない場合

を示しています。

※平成23年度の調査は東日本大震災のため、実施されませんでした。

5 安心して学べる環境づくりの推進

I いじめ、暴力行為等の平成27年度における本県の状況について (速報値)

1 調査の趣旨

本調査は、県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における児童生徒の問題行動等の状況について把握し、生徒指導上の取組のより一層の充実と、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげるため、実施しているものです。

2 調査結果の概要

(1) いじめ

【いじめの認知件数（校種別）】

(単位:件数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H27-H26	(前年度比)
小学校	102	975	621	536	871	335	(62.5%増)
中学校	109	630	529	310	504	194	(62.6%増)
高等学校	33	126	54	61	125	64	(104.9%増)
特別支援学校	1	7	5	3	10	7	(233.3%増)
計	245	1,738	1,209	910	1,510	600	(65.9%増)

- いじめの定義を踏まえ、初期段階や、ごく短期間のうちに解消した事案等を含め、積極的ないじめの認知を推進したことにより、平成27年度のいじめの認知件数は1,510件で、平成26年度と比較すると600件の増加。(前年度比65.9%増)
- 学校が把握したいじめの92.8%(前年度92.0%)が年度内に解消。

参考：いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。
(いじめ防止対策推進法第2条第1項)

(2) 暴力行為

【暴力行為の発生件数（校種別）】

(単位:件数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H27-H26	(前年度比)
小学校	87	118	174	268	425	157	(58.6%増)
中学校	564	543	598	525	379	▲146	(27.8%減)
高等学校	134	120	128	113	97	▲16	(14.2%減)
計	785	781	900	906	901	▲5	(0.6%減)

- ・ 平成27年度の暴力行為の発生件数は901件で、平成26年度と比較すると5件の減少。(前年度比0.6%減)
- ・ 特に小学校での暴力行為が増加している主な要因として考えられることは、心理的、家庭的に複雑な背景を抱える子どもたちの増加や、いじめの積極的な認知に伴うもの。

(3) 不登校

【不登校児童生徒数（小中学校）】

(単位:人数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H27-H26	(前年度比)
小学校	353	391	489	456	443	▲13	(2.9%減)
中学校	1,453	1,356	1,336	1,447	1,478	31	(2.1%増)
計	1,806	1,747	1,825	1,903	1,921	18	(0.9%増)

【不登校生徒数（高等学校）】

(単位:人数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H27-H26	(前年度比)
全日制	366	417	440	357	371	14	(3.9%増)
定時制	332	363	406	229	213	▲16	(7.0%減)
計	698	780	846	586	584	▲2	(0.3%減)

<不登校の状況>

- ・ 平成 27 年度の小中学校の不登校児童生徒数は 1,921 人で、平成 26 年度と比較すると 18 人増加。(前年度比 0.9%増)
- ・ 平成 27 年度の高等学校の不登校生徒数は 584 人で、平成 26 年度と比較すると 2 人減少。(前年度比 0.3%減) 課程別に見ると、全日制で 14 人増加。(前年度比 3.9%増)
- ・ 小中学校及び高等学校とも、「家庭に係る状況」や「学業の不振」などから「無気力の傾向がある」ことが主な要因。
- ・ 効果のあった学校の措置は、小中学校及び高等学校とも、「家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。」が最多。

参考：不登校の定義

「不登校」とは、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの 1 年間に連続又は断続して 30 日以上欠席した児童生徒数のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にあること（「病気」や「経済的な理由」による者を除く）をいう。

(4) 県立高等学校における中途退学

【中途退学者数】

(単位：人数)

	H23	H24	H25	H26	H27	H27-H26	(前年度比)
全日制	393	390	396	314	285	▲29	(9.2%減)
定時制	189	165	164	221	208	▲13	(5.9%減)
通信制	—	—	91	109	60	▲49	(45.0%減)
計	582	555	651	644	553	▲91	(14.1%減)

※通信制の中途退学調査は、H25 以降に実施

- ・ 平成 27 年度の県立高等学校における中途退学者数は 553 人で、前年度比 14.1%減少。(全日制 285 人(同 9.2%減)、定時制 208 人(同 5.9%減)、通信制 60 人(同 45.0%減))

3 今後の対応方針

本調査結果を踏まえ、これまでの児童生徒の問題行動等への対策の検証を行いながら、「未然防止の取組」「教育相談体制の充実」「チーム支援の推進」の観点から、以下の取組を進めてまいります。

「未然防止の取組」

- ・ 児童生徒の情報モラルの育成を目的としたみえネットスキルアップサポートや、保護者への啓発を目的としたネット啓発講座等の取組を有機的につなげ、子どもたちのインターネット社会を生き抜く力を育成。
- ・ インターネットの利用に係る問題への対応について、児童生徒の情報モラルの育成や教職員の指導力向上を図るため、「ネットトラブル対応事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進。
- ・ 小中学校のうち推進校4校において、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、また、高等学校のうち推進校2校において、生徒会活動を中心とした主体的な活動を実施することにより児童生徒の社会性を育成。
- ・ モデル中学校区において、新たな不登校を生まない取組として、児童会や生徒会を中心とした自治的な活動による居場所づくりや絆づくりを推進。

「教育相談体制の充実」

- ・ 全156中学校区にスクールカウンセラーを配置し、配置時間の弾力的な活用を推進し、小学校から中学校への途切れのない支援を充実。
- ・ スクールソーシャルワーカー9名を学校の要請に応じて派遣。スーパーバイザーを含む3名は学校からの要請に対応し、6名は県立高等学校6校にも配置することを通して、地域の中学校区を巡回し、地域の福祉等の関係機関とのネットワークを構築。

「チーム支援の推進」

- ・ 学校だけでは解決が難しい問題について、生徒指導特別指導員、スクールソーシャルワーカーからなるチームを編成し、配置のスクールカウンセラーや関係機関、家庭との連携を図りながら対応。また、必要に応じて弁護士等の専門家より助言を得て支援。
- ・ 各学校におけるスクールソーシャルワーカーの一層の周知・活用を図るため、「スクールソーシャルワーカー活用事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進。

II 「三重県いじめ防止条例（仮称）」の制定について

1 条例制定の意義

「いじめ防止対策推進法」の制定（平成 25 年 9 月施行）を受け、三重県では「三重県いじめ防止基本方針」を策定（平成 26 年 1 月）するとともに、三重県いじめ問題対策連絡協議会、三重県いじめ対策審議会、三重県いじめ調査委員会をそれぞれ条例（平成 26 年 3 月）により設置しました。

昨今、いじめにより子どもが命を失うという痛ましい事案が全国的に相次ぎ、これまで以上にいじめ問題に対して関係者が連携した組織的な取組が必要となっています。

このような中、県、市町、学校、保護者の役割等を明確にした総合的な視点での「三重県いじめ防止条例（仮称）」を制定することは、いじめは絶対に許さない、大人が子どもたちを守り抜くという強い姿勢を県として改めて示し、子どもたちの安全で安心な学びを支援するうえで重要な役割を果たすものと考えます。

2 国の動向

文部科学省では、「いじめ防止対策推進法」の施行、「いじめ防止基本方針」の策定から 3 年を目途に行うこととされている見直しに向け、いじめの定義・解釈や防止対策等の総合的な検討が進められています。

これまでに 4 回の有識者会議が開催されましたが、今後、さらに数回の会議を経て、見直し事項が取りまとめられ、その後、基本方針や法を見直すための具体的な検討・作業が進められます。

3 三重県での検討状況

関係部局（県教委（教育総務課、生徒指導課、人権教育課）、環境生活部（私学課、人権課）、健康福祉部（子育て支援課）、県警本部（少年課））による庁内WGで意見交換を進めてきました。

子どもたちがいじめ防止に関する理解を深め安心して学校生活を送ることができるよう、条例制定のプロセスにおいて「子ども目線」を大切にするための取組を進めることとしました。

（1）児童生徒アンケート

子ども目線の取組の一つとして、地域バランスや学校規模等を考慮しつつ県内の小学校 10 校（5・6 年生）・中学校 10 校（全学年）の児童生徒 3,408 人を対象に、アンケートによる意識調査を実施（平成 28 年 7 月）しました。

①【いじめの被害経験・加害経験】

	被害経験あり	加害経験あり	被害も加害も経験あり	両方なし
小学校	64.8 %	64.0 %	53.2 % 〔被害経験者の 82.1 %〕 〔加害経験者の 83.1 %〕	24.2 %
中学校	62.4 %	71.2 %	57.0 % 〔被害経験者の 91.3 %〕 〔加害経験者の 80.0 %〕	23.3 %

- ・ 被害者と加害者が入れ替わりながら、多くの子どもたちがいじめに関わった経験を持っていることが分かり、いじめがどの学校にも、どの子どもにも起こり得るものであることが改めて確認できました。

②【教員、保護者への願い】（自由記述から主なものを分類して集計）

	教員への願い	保護者への願い
小学校	①加害者をしっかり注意して、叱って(15.1%) ②話を聞いて、相談に乗って(13.4%) ③一人一人をよく見ていて(5.8%) ④休み時間も教室にいて(4.4%) ⑤見て見ぬふりをしないで(2.1%)	①話を聞いて、相談に乗って(20.0%) ②学校での出来事を聞いて(6.8%) ③様子をよく見ていて(5.2%) ④自分の子どもがいじめをしないように家でしっかり教育して(4.9%) ⑤話しやすい家族でいて(1.9%)
中学校	①一人一人をよく見ていて(14.2%) ②話を聞いて、相談に乗って(12.3%) ③加害者をしっかり注意して、叱って(8.3%) ④休み時間等に見回りして(3.5%) ⑤見て見ぬふりをしないで(2.8%)	①話を聞いて、相談に乗って(18.5%) ②学校での様子や出来事を聞いて(8.2%) ③様子をよく見ていて(5.9%) ④話しやすい家族でいて(3.3%) ⑤味方でいて、守って(2.9%)

- ・ 教員への願い： 小学校では「しっかり注意してほしい、叱ってほしい」が多いのに対し、中学校では「一人ひとりをよく見てほしい」が最も多く、発達段階による違いが見られました。一方、小・中学校ともに、休み時間も目を離さないでほしいという意見や、見て見ぬふりをしないでほしいという意見もありました。
- ・ 保護者への願い： 小・中学校ともに、「話を聞いてほしい、相談に乗ってほしい」や、「学校での出来事を聞いてほしい」が多く、家庭で保護者と対話する時間をもっとほしいと考えていることが分かりました。

(2) 今後の対応

アンケート調査で得られた子どもたちの声をできるだけ反映し、子ども目線に立った条例となるよう検討してまいります。また、子ども目線による工夫の一環として、一般のパブリックコメントに加え、子どもたちにも分かりやすい言葉に置き換えた子どもパブコメ等の実施も検討してまいります。

これまで、年度内を目途に取り組んできました。国の検討状況を勘案すると今年度中の策定は困難ですが、引き続き準備を進めてまいります。